和光中学校学校通信　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

# ひかり

令和４年１１月１８日
第 １３ 号

## 「〇〇」で進路を切り拓く人に

10 月 17 日に実施した第 1 回高校説明会(国立高専、私立高校)に続いて、11 月 16 日に第２回高校説明会(公立高校)が開かれました。各校の校長先生、教頭先生、進路担当の先生方が３年生と保護者の方々(１、２年の保護者の方も一部参加)を前に、自校の教育方針や特色等について話をされました。高校の先生方のお話が始まる前に、３年生に次のような話をしました。

皆さん、「高校中退」という言葉を耳にしたことがありますか？高校を途中で退学するということです。(文科省の調査結果によると、2020 年度全国高校中途退学者数は 34,965 人でした。) 途中でやめるのは、何も高校に限ったことではありません。仕事に就いても、途中でやめる人はいます。学校の教員の中にも「こんなにしんどいと思わなかった。」と言い、いとも簡単にやめていった人がいます。

30 年以上前のことになりますが、私は一回目の教員採用試験で不合格となり、母校で国語の講師をしながら二度目の挑戦でやっと合格を手にしました。当時、周りの教員の中で、結婚で香川を離れるなど特別の理由がない限り、教員をやめた人など一人もいませんでした。それは、何年も講師をしながら採用試験を受け続け、必死で努力し続けた結果、合格を手にしたからだと思います。簡単に手に入ったものは、簡単に手放せます。でも、苦労して手に入れたものを簡単に手放すことなどできません。『努力の日々』があったからこそ、その後困難にぶつかっても逃げ出さずに踏ん張ることができたのです。

皆さん(＝３年生)にもいよいよ入試という大きな試練の時がやってきました。来週 21 日、一人一人の進路希望について話し合う「進路検討会」が開かれます。３年団の先生を中心に、過去の合否データ等の情報を参考にしながら進路先について検討します。

ここで、かつて私が担任したM君の話をさせてください。進路検討会で話し合われた内容をM君に伝えたときの彼の姿を今もはっきりと覚えています。何よりも野球が生きがいだったM君にとって高校選択の最優先事項は「尊敬する野球部の先輩と素晴らしい監督がいる高校」でした。ところが、過去のデータが示すところのM君の合格の可能性は決して高くありません。進路検討会から出された答えは「進路変更を強く勧めなさい」でした。そのことを本人に伝えると、一気にM君の目から涙があふれ出し、「僕は絶対にあきらめられません。１月の実力テスト(直前１回)の結果まで待ってください。」と、涙で声を詰まらせながら言いました。その後、M君は周りの大人たちの心配をよそにがむしゃらに勉強し、約束の１月の実力テストで結果を出しました。それから入試当日までも心のネジを緩めることなく勉強し続け、見事『自らの努力』で合格を勝ち取りました。

それから 10 年余り経ったある日、当時勤めていた学校に一本の電話がかかってきました。電話の主はM君のお母さんでした。「先生、実は来月息子が結婚するんです。それで、披露宴のサプライズで先生にビデオメッセージをお願いしたいんです。」その電話から数日後、ご両親がビデオカメラを手に学校に来られました。ビデオの中で私がM君に伝えたメッセージは、「・・・あなたは、決してあきらめない人です。これから生きる上でどんな困難にぶつかったとしても、決して逃げることなく『努力』で乗り越えると私は信じています。中３の時に見せてくれた『全力投球』で生きる姿を私は決して忘れません。・・・」

皆さんも、心の声をしっかりと聞き、自らの意志で、そして何より努力することで進路を実現させてください。応援しています。